

情報活用能力 学習目標リスト

領域	学習内容	レベル1 (小学校1～3年)	レベル2 (小学校4～6年)	レベル3 (中学校)	レベル4 (高等学校)
基礎スキル	A1:記録・編集	写真や動画の撮影、音声の記録ができる	写真や映像、音声の加工・編集ができる	目的や情報の種類に応じてアプリを選択、活用できる	複数のアプリを組み合わせで情報を編集できる
	A2:端末操作	ローマ字で文字入力ができる	ファイル・フォルダの管理ができる	クラウドを用いて協働作業のためにPCを活用できる	クラウド等のデータを安全に管理・活用できる
	A3:ウェブ検索	キーワードで検索できる	サイトの構造を理解して情報を見付けられる	AND、ORなど条件を工夫して検索できる	目的に応じて検索サービスを使い分けことができる
	A4:図書利用	図書館内にある本を見付けることができる	目次や索引を活用して情報を見付けられる	図書・新聞等の特徴を理解して必要な情報を見付けられる	図書・新聞・文献等のデータベースを活用して必要な情報を見付けられる
	A5:インタビュー	質問を用意することができる	下調べをして質問を選ぶことができる	相手が答えやすいように質問の順番を配慮できる	相手の考えを引き出すために追加の質問ができる
	A6:アンケート	何を聞かか質問を考えられる	目的にあった質問の形式や内容を考えられる	集計・分析できるように適切な設問文や選択肢を作成できる	設問を組み合わせた集計・分析を想定して設問の形式や選択肢を考られる
	A7:メモ	大事だと思ったところを短い言葉で書くことができる	箇条書き・単語でポイントをまとめられる	書く場所や矢印・強調などで工夫できる	インタビューの状況に応じて適切な方法で記録できる
	A8:口頭発表	物を見せながら大きな声で分かりやすく話せる	資料を示しながら身振りや声の抑揚などを工夫できる	資料を効果的に活用しながら伝え方を工夫できる	オンライン等の特質に応じて伝え方を工夫できる
探究スキル	B1:取捨選択	課題解決に役立つ情報を選ぶことができる	選んだ根拠を説明することができる	信頼性や信ぴょう性を考えて情報を選ぶことができる	重要度を考えて情報を階層化することができる
	B2:読み取り	ひとつの資料から視点をもって情報を読み取れる	複数情報から共通・相違点を見付けられる	複数情報から矛盾点や欠けた情報を見付けられる	複数情報から仮説を生成し、推論することができる
	B3:創造	情報から分かったことをまとめられる	情報を組み合わせて新たな意味を見いだせる	情報を多面的に見て新たなアイデアを見いだせる	情報を批判的に考察し、新たな価値を創出できる
	B4:伝達内容の構成	話の順番を組み立てることができる	相手を説得するために論理を組み立てられる	アウトライン(目次)をつくり、内容を構成できる	複数の内容からなる情報を伝達する際、適切に構成できる
	B5:表現の工夫	メディアに応じた工夫ができる	伝えたいことに応じて表現を工夫できる	文字・写真・動画等を組み合わせて表現を工夫できる	色彩やフォント、映像・音響効果などメディアの特性を理解して表現を工夫できる
	B6:受け手の意識	相手を意識して伝え方を工夫する	相手の反応を見て伝え方や内容を工夫する	相手の関心に配慮して伝え方や内容を工夫できる	不特定多数やSNS上など状況に応じて伝え方や内容を工夫できる
	B7:学習計画	決められた計画に見通しをもつことができる	自分で計画が立てられる	グループ内で役割分担を考慮して計画が立てられる	グループメンバーの特性を生かして役割を分担し、計画が立てられる
	B8:評価・改善	学びを振り返ることができる	振り返りをもとに次にやってみたいことを考えられる	振り返りをもとに改善策を立てられる	振り返りをもとに学習計画を修正・調節できる
プログラミング	C1:物事の分解	物事を部品に分けて捉えることができる	部品を組み合わせで物事を表現できる	物事の全体をシステム(部品の関係)で捉えられる	物事の解決策をシステムとして捉え、表現できる
	C2:情報の分類	情報を決められた観点に分類・整理できる	観点を考えて情報を分類できる	情報の属性を意識して構造的に捉えられる	PCを用いて大量のデータを分類・整理できる
	C3:情報の関連付け	情報と情報の間にある関係に気付くことができる	情報と情報の関係を図やプログラムで表現できる	情報の規則性、順序性を図やプログラムで表現できる	シミュレーションによって規則性や関係性を見いだせる
	C4:問題解決の手順	問題解決の流れを手順に表すことができる	順序・繰り返し・分岐などを組み合わせて表現できる	アクティビティ図等を用いてモデル化できる	手続きを評価し、効率性の観点から最適化できる
	C5:試行錯誤	うまくいかない時に繰り返し取り組むことができる	シミュレーションを通して改善策を見いだせる	条件を切り分け、解決方法を論理的に考えられる	時間、コストなどの制約条件のもとで、問題解決の方法を最適化できる
	C6:データの傾向	大まかなデータの傾向を見出すことができる	データの変化を捉えて説明できる	表やグラフを用いてデータを統計的に処理できる	統計指標、回帰、検定などを用いてデータを統計的に整理・分析できる
	C7:情報技術の将来	新しい情報技術がどんなものか知る	新しい情報技術にどう関わるか説明できる	情報技術が社会にどう活用されているか説明できる	新しい情報技術が社会や産業をどう変化させていくのか説明できる
情報モラル	D1:コミュニケーション	相手によって受け止め方が違うことを知る	発信する情報に責任をもつことができる	ネットワークの公共性を意識して行動できる	ネットワーク上のコミュニケーショントラブルに対して原因や対策を説明できる
	D2:法と権利	人のつくった作品や情報を大切にできる	著作権や肖像権に留意して情報を扱うことができる	情報の保護や取り扱いに関する法律を理解する	情報技術の発達に与える影響を説明できる
	D3:健康・安全	情報機器を使う場所や時間を守ることができる	情報機器を使う場所や時間を自分で管理できる	健康に配慮して情報機器・サービスを活用できる	健康や安全に対する情報機器・サービスのメリット・デメリットを説明できる
	D4:ルール・マナー	ルールやマナーが必要であることを知る	ルールやマナーを相手と一緒につくり出せる	ルールやマナーを創造・遵守しながら問題解決できる	ルールやマナーを創造し、コミュニティ内で共通理解を築こうとする
	D5:セキュリティ	パスワードを安全に管理できる	なりすましやウィルスなどの危険性を理解する	情報セキュリティの重要性を理解する	情報セキュリティを確保するための方法が説明できる
	D6:個人情報	自他の情報をむやみに他人にもらさない	自他の情報が伝わる範囲を考慮して行動できる	自他の情報を相手や範囲を考慮して管理できる	個人情報を法的な理解を踏まえた上で取り扱うことができる
	D7:情報社会の将来	情報社会の特色を知る	情報社会の中でどう生きていくか説明できる	情報社会がどうあるべきか説明できる	情報社会にどう関わっていくか説明できる

* この表は仙台市教育センターが作成したものを香川県教育センターで一部改訂したものです。

令和3年度香川県教育センター研究成果報告書に掲載していたものです
学校外でのご利用の際は香川県教育センターまでご連絡ください